



BlueXPの分類を管理します

BlueXP classification

NetApp
April 03, 2024

目次

BlueXPの分類を管理します	1
BlueXPの分類スキャンに個人データ識別子を追加	1
BlueXPの分類スキャンから特定のディレクトリを除外する	16
コンプライアンスアクションのステータスを表示します	19
追加のグループIDを組織に対してオープンとして定義する	20
BlueXPの分類アクションの履歴を監査します	21
BlueXPの分類スキャン速度が低下します	23
BlueXP分類からデータソースを削除しています	24
BlueXP分類をアンインストールしています	26

BlueXPの分類を管理します

BlueXPの分類スキャンに個人データ識別子を追加

BlueXPの分類では、今後のスキャンでBlueXPの分類によって特定される「個人データ」のカスタムリストを追加するためのさまざまな方法が用意されています。これにより、機密性の高いデータが_all_組織のファイル内のどこにあるかを全体的に把握できます。

- スキャンするデータベース内の特定の列に基づいて一意の識別子を追加できます。
- テキストファイルからカスタムキーワードを追加できます。これらの単語はデータ内で識別されます。
- 正規表現 (regex) を使用してパーソナルパターンを追加できます。既存の定義済みパターンに正規表現が追加されます。
- カスタムカテゴリを追加して、データ内の特定のカテゴリの情報を特定できます。

カスタムスキャン条件を追加するこれらのメカニズムはすべて、すべての言語でサポートされています。



このセクションで説明する機能は、データソースに対して完全な分類スキャンを実行することを選択した場合にのみ使用できます。マッピングのみのスキャンを実行したデータソースでは、ファイルレベルの詳細は表示されません。

データベースからカスタムの個人データ識別子を追加します

Data Fusion _という機能を使用すると、組織のデータをスキャンして、データベースからの一意の識別子が他のいずれかのデータソースに存在するかどうかを確認できます。データベーステーブルで特定の列を選択することで、BlueXPのスキャンで検索される追加の識別子を選択できます。たとえば、次の図は、データ Fusion を使用してボリューム、バケット、およびデータベースをスキャンし、Oracle データベースからすべての顧客 ID が出現する状況を示しています。

Databases -- Structured Data

Database: Oracle
Schema: Accounts
Table: Customers
Column: Customer ID

Account	Name	Customer ID	Address
1234	ABC Co	135876	125 Main St
1235	XYZ Co	213536	35A Brick R
1236	Cat Co	359264	55 Wind Av
1237	Dog Co	472637	11025 Cor
1238	Zebra Co	582455	36 Sahara
...

Scan your volumes and buckets for occurrences of the Customer IDs in your Oracle database

Files -- Unstructured Data

File in Volume 1

XXXXXXXXXXXX
xx213536xxx
XXXXXXXXXXXX
xx472637xxx
XXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXX

File in Volume 2

XXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXX
xxx472637xx

File in Bucket 1

XXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXX
xx213536xxx
XXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXX

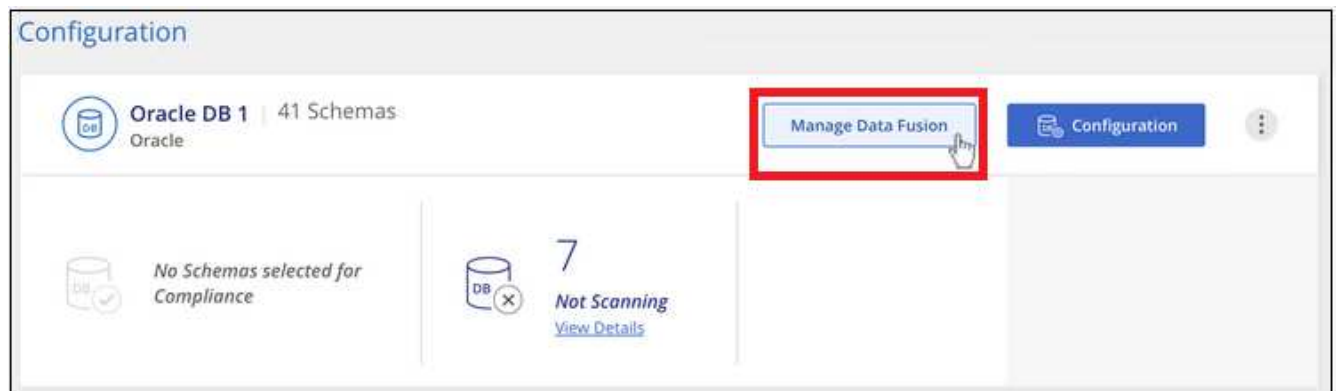
このように、2つのボリュームと1つのS3バケットにそれぞれ一意の顧客IDが見つかりました。データベーステーブル内の一致も識別されます。

独自のデータベースをスキャンするため、データが保存されている言語に関係なく、今後のBlueXP分類スキャンでデータを識別するために使用されることに注意してください。

手順

が必要です **"データベースサーバを少なくとも1つ追加しました"** データFusion ソースを追加する前に、をBlueXPの分類に追加する必要があります。

1. [構成] ページで、ソースデータが存在するデータベースの [データ Fusion の管理] をクリックします。



ボタンを選択するスクリーンショット。"]

2. 次のページで [Add Data Fusion source*] をクリックします。
3. [Add Data Fusion Source_] ページで、次の手順を実行します。

- ドロップダウンメニューからデータベーススキーマを選択します。
- そのスキーマにテーブル名を入力します。
- 使用する一意の識別子を含む列を入力します。

複数の列を追加する場合は、各列名またはテーブルビュー名を別々の行に入力します。

Add Data Fusion Source

To add a Data Fusion source reference, specify one or more columns which contain your organization's unique identifiers, such as a column used to store customer IDs. Note that adding a Data Fusion Source will initiate an additional scan of your data stores.

Database Schema: Table:

Columns Containing Identifiers ⓘ:

- [Add Data Fusion Source*] をクリックします。

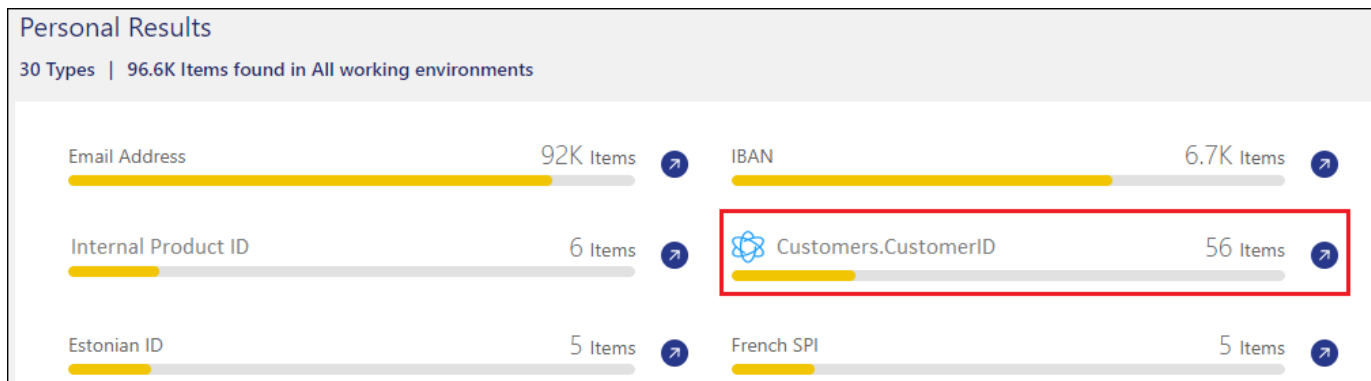
Oracle DB 1 Data Fusion + Add Data Fusion source

With Data Fusion, Data Sense can identify occurrences of your organization's unique identifiers found in your unstructured data stores, using structured data indexes containing those unique identifiers as a source reference. [Learn More](#)

Database Schema	Table	Data Fusion Source Columns	
Schema1	Table 1	Column 12, Column 4, Column 18	...
Schema2	Table 2	Column 2, Column 14, Column 8	...

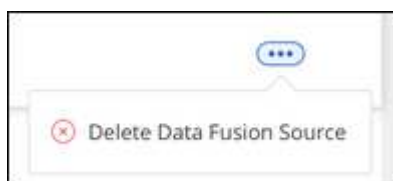
結果

次のスキャンの後、この新しい情報は、[個人の結果] セクションの [コンプライアンスダッシュボード] と [個人データ] フィルタの [調査] ページに表示されます。分類子に使用した名前がフィルタリストに表示されます。例：Customers.CustomerID。



Data Fusion ソースを削除します

特定の Data Fusion ソースを使用してファイルをスキャンしない場合は、Data Fusion インベントリページからソース行を選択し、[* データ Fusion ソースの削除 *] をクリックします。



単語のリストからカスタムキーワードを追加します

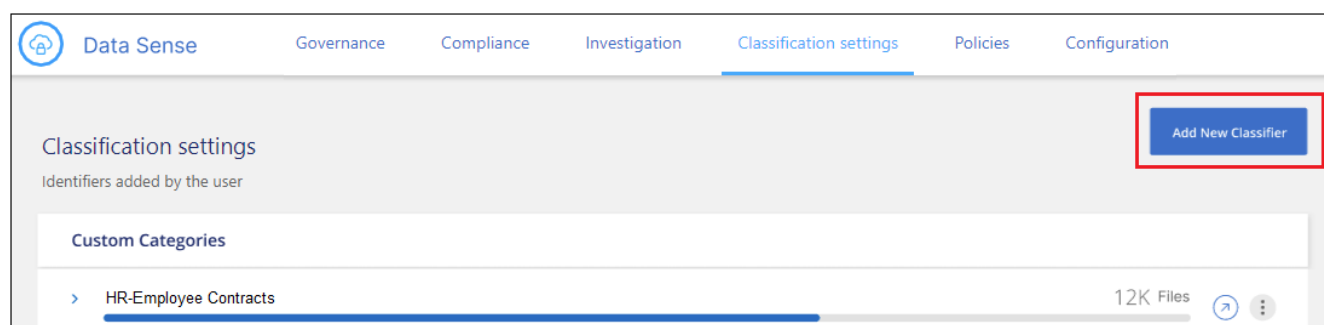
BlueXPの分類にカスタムキーワードを追加すると、その情報がデータ内のどこにあるかがわかるようになります。キーワードを追加するには、BlueXPの分類で認識したい単語を1つずつ入力します。これらのキーワードは、BlueXPの分類ですでに使用されている定義済みの既存のキーワードに追加され、結果は個人のパターンセクションに表示されます。

たとえば、すべてのファイルで内部製品名が言及されている場所を確認して、これらの名前が安全でない場所でアクセスできないようにすることができます。

カスタムキーワードを更新すると、BlueXP分類によってすべてのデータソースのスキャンが再開されます。スキャンが完了すると、BlueXP分類コンプライアンスダッシュボードの[Personal Results]セクションと[Investigation]ページの[Personal Data]フィルタに新しい結果が表示されます。

手順

1. [Classification settings]タブで*[Add New Classifier]*をクリックし、_Add Custom Classifier_wizardを起動します。



2. [タイプの選択]ページで、分類子の名前を入力し、短い概要を入力して、[Personal identifier]を選択し、[

次へ*]をクリックします。

入力した名前は、BlueXP分類UIに分類子の要件に一致するスキャン済みファイルの見出しとして表示され、[Investigation]ページにフィルタの名前として表示されます。

また、「システムで検出された結果をマスク」のチェックボックスをオンにして、UIに完全な結果が表示されないようにすることもできます。たとえば、クレジットカード番号や類似の個人データを完全に非表示にする場合があります(マスクは次のようにUIに表示されます:"*****" 3434)。

1 Select type 2 Select tool 3 Create Logic

Select type

Select the type of classifier that you want to add to the system, and provide the name and description. Data Sense re-scans all your data sources after you add a new classifier. When the scan is complete, all matching results are displayed in the "Classification Settings" dashboard and in other Data Sense pages.

Classifier name

Internal Product Names

Description

Identify internal product names found in all files

☒ **Personal identifier**

The classifier will be added to the system as a new personal identifier. Any matches are considered "personal data", and they are added to the results that are displayed in the Personal Results page and in the Investigation page. [See the list of personal data that Data Sense identifies by default.](#)

☐ Mask detected results in the system

☐ **Category**

The classifier will be added to the system as a new Category. Any matches are added to the results that are displayed in the Categories page and in the Investigation page. [See the list of categories that Data Sense identifies by default.](#)

Previous Next

3. [データ分析ツールの選択]ページで、分類子の定義に使用する方法として*を選択し、[次へ]*をクリックします。

Select Data Analysis Tool

Select the tool that will be used to build the list of words, or patterns, that Data Sense will attempt to match in your data sources.

☒ **Custom keywords** ⓘ
Create a custom personal pattern based on a list of keywords that you provide.

☐ **Custom regular expression** ⓘ
Create a custom personal pattern based on a regular expression that you define.

☐ **DB fusion** ⓘ
Create a custom personal pattern based on the values found in specific columns in your scanned database tables. This allows you to identify whether unique identifiers from your databases are found in any of your other data sources.

[Previous](#) [Next](#)

を選択した

スクリーンショット。"]

4. [Create Logic]ページで、認識するキーワード（各単語を別々の行に入力）を入力し、*[Validate]*をクリックします。

下のスクリーンショットは、内部の製品名(さまざまな種類のフクロウ)を示しています。これらの項目に対するBlueXPの分類検索では、大文字と小文字は区別されません。

Create Logic

Create logic for the new identifier, based on regular expression and keywords that should be detected. You will be able to change the logic in the future, by clicking on "edit" from the custom classification dashboard.

Custom keywords list ①

- Maximum of 100,000 words.
- Separate between keywords with a new line
- The keywords are not case sensitive
- Each word must be at least 3 characters long. Shorter words are ignored.
- Duplicate words are only added once.

barred
barn
horned
snowy
screech

Validate

✔ Keywords list is valid.

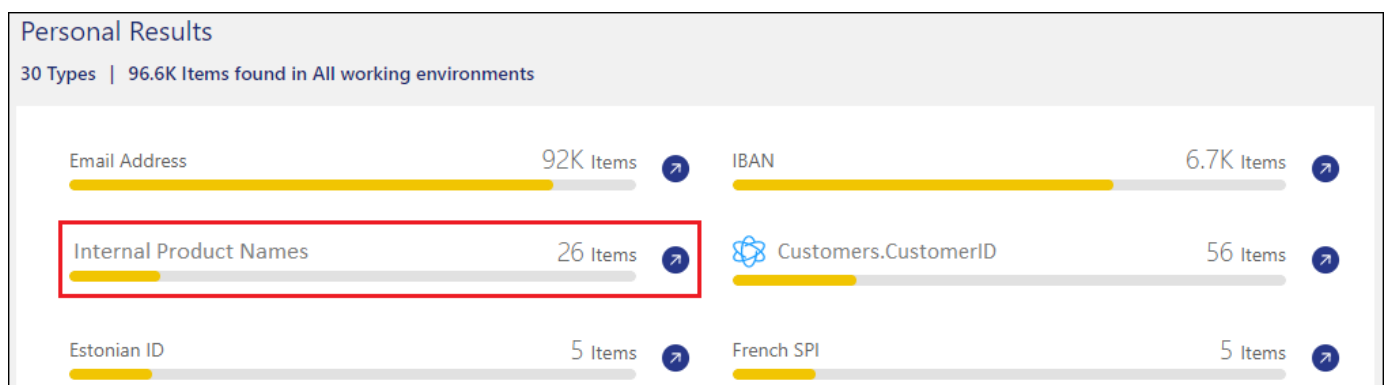
Previous

Done

5. [完了]*をクリックすると、BlueXPの分類によってデータの再スキャンが開始されます。

結果

スキャンが完了すると、コンプライアンスダッシュボードの[個人結果]セクションと[個人データ]フィルタの[調査]ページに、この新しい情報が結果に含まれます。



ペインにカスタムキーワードの結果の例を示すスクリーンショット。"]

ご覧のように、分類子の名前が個人結果パネルの名前として使用されます。このようにして、さまざまなキーワードグループをアクティブ化し、各グループの結果を表示できます。

正規表現を使用してカスタムの個人データ識別子を追加する

カスタム正規表現（regex）を使用して、データ内の特定の情報を識別するためのパーソナルパターンを追加

できます。これにより、新しいカスタム正規表現を作成して、システムにまだ存在しない新しい個人情報要素を特定できます。正規表現は、BlueXPの分類ですでに使用されている既存の定義済みパターンに追加され、結果は[Personal Patterns]セクションに表示されます。

たとえば、すべてのファイルで内部製品IDが記載されている場所を確認できます。製品IDに明確な構造が含まれている場合、たとえば、201で始まる12桁の数値であれば、カスタム正規表現機能を使用してファイル内で検索できます。この例の正規表現は*\b201\d {9} \b*です。

正規表現を追加すると、BlueXPの分類によってすべてのデータソースのスキャンが再開されます。スキャンが完了すると、BlueXP分類コンプライアンスダッシュボードの[Personal Results]セクションと[Investigation]ページの[Personal Data]フィルタに新しい結果が表示されます。

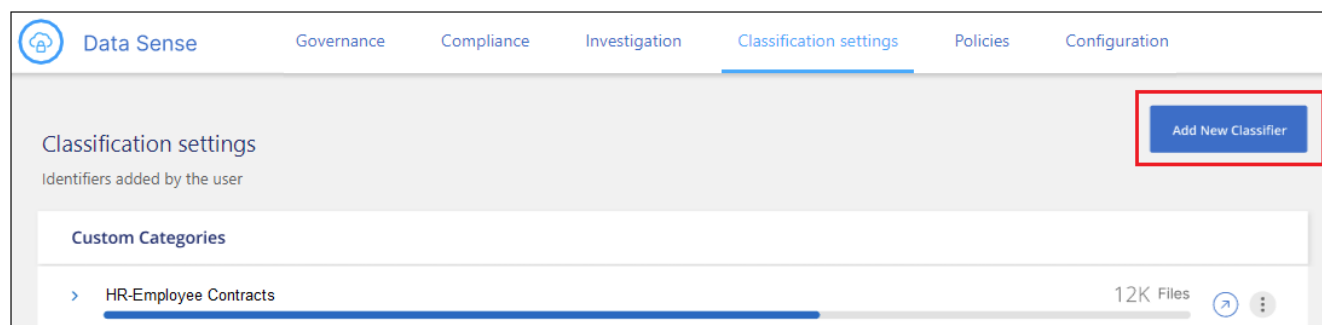
正規表現の作成についてサポートが必要な場合は、を参照してください。 ["正規表現101"](#)。フレーバーに「*Python*」を選択すると、BlueXPの分類が正規表現と一致する結果のタイプが表示されます。。 ["Python Regex Testerページ"](#) パターンをグラフィカルに表示することもできます。



現在、正規表現を作成するときにパターンフラグを使用することは許可されていません。これは、"/"を使用しないことを意味します。

手順

1. [Classification settings]タブで*[Add New Classifier]*をクリックし、_Add Custom Classifier_wizardを起動します。



2. [タイプの選択]ページで、分類子の名前を入力し、短い概要を入力して、[Personal identifier]を選択し、[次へ*]をクリックします。

入力した名前は、BlueXP分類UIに分類子の要件に一致するスキャン済みファイルの見出しとして表示され、[Investigation]ページにフィルタの名前として表示されます。また、「システムで検出された結果をマスク」のチェックボックスをオンにして、UIに完全な結果が表示されないようにすることもできます。たとえば、クレジットカード番号全体または類似の個人データを非表示にする場合などです。

1 Select type

2 Select tool

3 Create Logic

Select type

Select the type of classifier that you want to add to the system, and provide the name and description. Data Sense re-scans all your data sources after you add a new classifier. When the scan is complete, all matching results are displayed in the "Classification Settings" dashboard and in other Data Sense pages.

Classifier name

Internal Product ID

Description

Identify internal product IDs found in all files

☒ **Personal identifier**

The classifier will be added to the system as a new personal identifier. Any matches are considered "personal data", and they are added to the results that are displayed in the Personal Results page and in the Investigation page. [See the list of personal data that Data Sense identifies by default.](#)

☐ Mask detected results in the system

☐ **Category**

The classifier will be added to the system as a new Category. Any matches are added to the results that are displayed in the Categories page and in the Investigation page. [See the list of categories that Data Sense identifies by default.](#)

Previous Next

3. [データ分析ツールの選択]ページで、分類子の定義に使用するメソッドとして[カスタム正規表現*]を選択し、[次へ*]をクリックします。

Select Data Analysis Tool

Select the tool that will be used to build the list of words, or patterns, that Data Sense will attempt to match in your data sources.

☐ **Custom keywords** ⓘ
Create a custom personal pattern based on a list of keywords that you provide.

☒ **Custom regular expression** ⓘ
Create a custom personal pattern based on a regular expression that you define.

☐ **DB fusion** ⓘ
Create a custom personal pattern based on the values found in specific columns in your scanned database tables. This allows you to identify whether unique identifiers from your databases are found in any of your other data sources.

[Previous](#) [Next](#)

が選択され

ていることを示すスクリーンショット。"]

4. Create Logic_pageで、正規表現と近接文字を入力し、* Done *をクリックします。
 - a. 正規表現は任意に入力できます。[検証]*ボタンをクリックして、BlueXPで正規表現が有効かどうか、また正規表現が広すぎないかどうか（返される結果が多すぎないかどうか）が検証されます。
 - b. 必要に応じて、近接キーワードを入力して結果の精度を高めることができます。検索対象のパターンの300文字以内（検出されたパターンの前または後）に検索されるのが一般的な単語です。単語またはフレーズをそれぞれ別の行に入力します。

Create Logic

Create logic for the new identifier, based on regular expression and keywords that should be detected.

Regular expression ⓘ

Add the pattern that should be detected to identify specific information in your data, using a custom regular expression.

Validate

✓ **Success:** Regular expression is valid.

☒ **Proximity words** - To improve the detection accuracy, insert phrases that must appear near by the regular expression's match.

Previous

Done

結果

分類子が追加され、BlueXPの分類によってすべてのデータソースの再スキャンが開始されます。カスタム分類子ページに戻り新しい分類子に一致するファイルの数を確認できますすべてのデータソースをスキャンした結果は、スキャンする必要があるファイルの数によってはしばらく時間がかかります。

Data Sense	Governance	Compliance	Investigation	Classification settings	Policies	Configuration
Classification settings						
Identifiers added by the user						
Custom Categories						
HR - Employee Contracts 7.5K Files						
Personal information						
Internal Product ID 12K Files						

カスタムカテゴリを追加します

BlueXPは、スキャンしたデータをさまざまなカテゴリに分類して分類します。カテゴリは、各ファイルのコンテンツとメタデータの人工知能分析に基づくトピックです。["事前定義されたカテゴリのリストを参照して"](#)

ください"。

カテゴリを使用すると、保有している情報の種類を表示して、データの状況を把握することができます。たとえば、_resumes_or_employee_contracts_のようなカテゴリには、機密データが含まれている場合があります。結果を調査すると、従業員契約が安全でない場所に保存されていることがわかります。その後、その問題を修正できます。

BlueXPの分類にカスタムカテゴリを追加すると、データ資産に固有の情報のカテゴリがデータのどこにあるかを特定できます。特定するデータのカテゴリを含む「トレーニング」ファイルを作成して各カテゴリを追加し、BlueXPの分類でそれらのファイルをスキャンしてAIで「学習」し、データソース内のそのデータを識別できるようにします。これらのカテゴリは、BlueXPの分類ですでに識別されている既存の事前定義されたカテゴリに追加され、[カテゴリ]セクションに結果が表示されます。

たとえば、必要に応じて削除できるように、.gz形式の圧縮インストールファイルがファイル内のどこにあるかを確認することができます。

カスタムカテゴリを更新すると、BlueXPの分類によってすべてのデータソースのスキャンが再開されます。スキャンが完了すると、BlueXP分類コンプライアンスダッシュボードの[カテゴリ]セクションと[カテゴリ]フィルタの[調査]ページに新しい結果が表示されます。 ["カテゴリ別にファイルを表示する方法を参照してください"](#)。

必要なもの

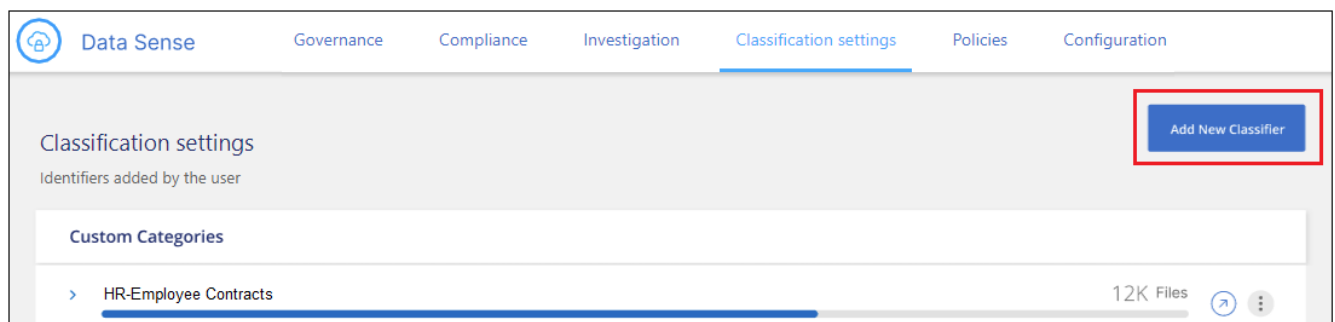
BlueXPの分類で認識するデータカテゴリのサンプルを含むトレーニングファイルを少なくとも25個作成する必要があります。次のファイルタイプがサポートされています。

.CSV, .DOC, .DOCX, .GZ, .JSON, .PDF, .PPTX, .RTF, .TXT, .XLS, .XLSX, Docs, Sheets, and Slides

ファイルは100バイト以上である必要があり、BlueXPの分類でアクセスできるフォルダに配置されている必要があります。

手順

1. [Classification settings]タブで*[Add New Classifier]*をクリックし、_Add Custom Classifier_wizardを起動します。



2. [Select type]ページで、分類子の名前を入力し、簡単な概要を入力して*を選択し、[Next]*をクリックします。

入力した名前が、定義しているデータのカテゴリに一致するスキャン済みファイルの見出しとしてBlueXP分類UIに表示され、[Investigation]ページにフィルタの名前として表示されます。

1 Select type
2 Select tool
3 Create Logic

Select type

Select the type of classifier that you want to add to the system, and provide the name and description. Data Sense re-scans all your data sources after you add a new classifier. When the scan is complete, all matching results are displayed in the "Classification Settings" dashboard and in other Data Sense pages.

Classifier name

Description

☐ **Personal identifier**
The classifier will be added to the system as a new personal identifier. Any matches are considered "personal data", and they are added to the results that are displayed in the Personal Results page and in the Investigation page. [See the list of personal data that Data Sense identifies by default.](#)
☐ Mask detected results in the system

☒ **Category**
The classifier will be added to the system as a new Category. Any matches are added to the results that are displayed in the Categories page and in the Investigation page. [See the list of categories that Data Sense identifies by default.](#)

Previous
Next

3. [Create Logic]ページで、学習ファイルが準備されていることを確認し、*[ファイルの選択]*をクリックします。

Create Logic

AI-based similarity training ⓘ

- Insert NFS folder path
- The folder should contain minimum 25 files and maximum 1000 files that will be used for the AI training.
- Supported file types: pdf, docx, doc, pptx, xls,xlsx, csv, txt, gz, rtf, docs, sheets, slides, json
- The keywords are not case sensitive
- Minimum file size: 100B

Compressed Installer files

ページのスクリーンショット。BlueXPの分類に使用するデータを含むファイルを追加します。"]

4. ボリュームのIPアドレスとトレーニングファイルが格納されているパスを入力し、*[追加]*をクリックしま

す。

Insert folder path that contains at least 25 files for the training

Enter the IP address and volume name, along with the path to the location of the training files.

IP

XXX.XXX.XXX.XXX:/VolumeName

Training Data - Folder path

folder/path/

Add

Cancel

5. トレーニングファイルがBlueXPの分類で認識されたことを確認します。要件を満たしていないトレーニングファイルを削除するには、* x *をクリックします。[完了]*をクリックします。

Create Logic

AI-based similarity training

- Insert NFS folder path
- The folder should contain minimum 25 files and maximum 1000 files that will be used for the AI training.
- Supported file types: pdf, docx, doc, pptx, xls, xlsx, csv, txt, gz, rtf, docs, sheets, slides, json
- The keywords are not case sensitive
- Minimum file size: 100B

Select Files

Compressed Installer files

Total uploaded files: 54

File name	File Size	File Type	Reliability	included in training
File1	56	File type	Sufficient	x
File2	22	File type	Sufficient	x
File3	43	File type	Sufficient	x
File4	11	File type	Sufficient	x

Previous

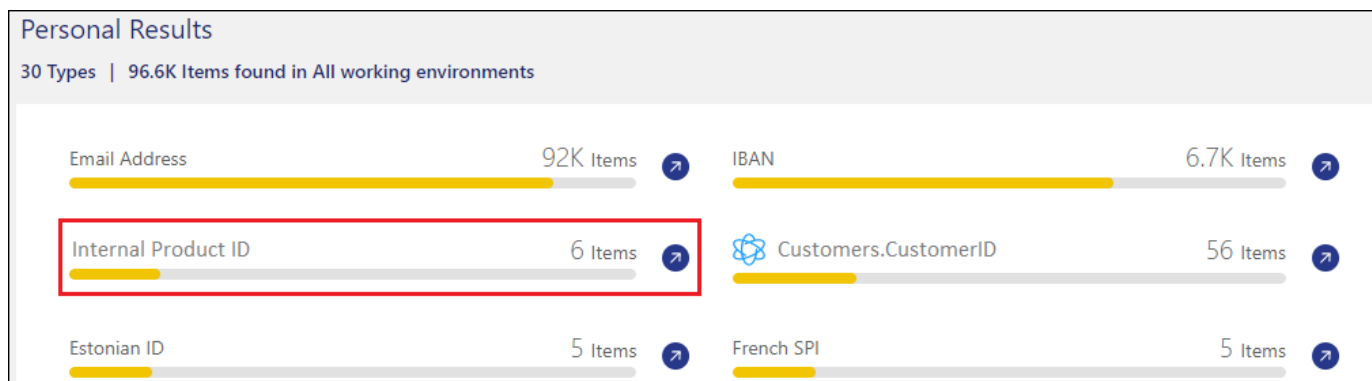
Done


結果

トレーニングファイルの定義に従って新しいカテゴリが作成され、BlueXPの分類に追加されます。その後、BlueXPで分類が開始され、すべてのデータソースが再スキャンされて、この新しいカテゴリに該当するファイルが特定されます。[Custom Classifiers]ページに戻り、新しいカテゴリに一致するファイルの数を確認できます。すべてのデータソースをスキャンした結果は、スキャンする必要があるファイルの数によってはしばらく時間がかかります。

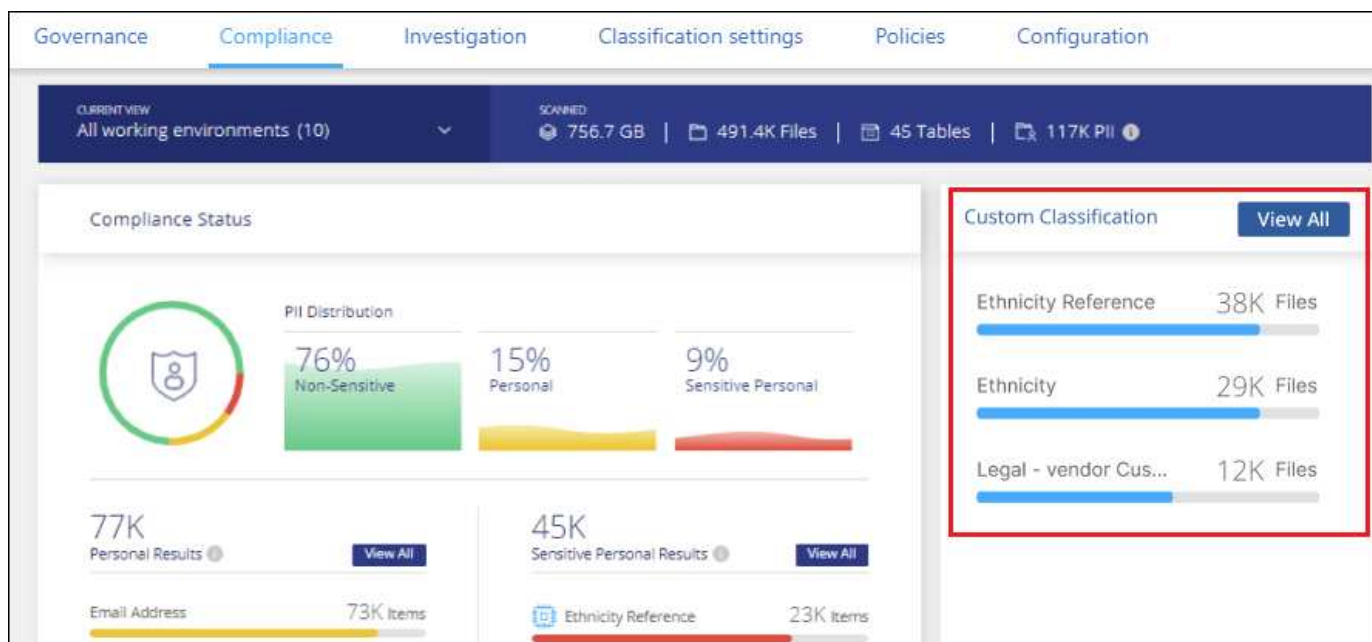
カスタム分類子の結果を表示します

コンプライアンスダッシュボードおよび「調査」ページで、任意のカスタム分類子の結果を表示できます。たとえば、このスクリーンショットは、「個人の結果」セクションの下のコンプライアンスダッシュボードに表示されている、一致した情報を示しています。



をクリックします  ボタンをクリックすると、詳細な結果が「調査」ページに表示されます。

さらに、カスタム分類子の結果はすべて「カスタム分類子」タブに表示され、上位6つのカスタム分類子の結果が「コンプライアンスダッシュボード」に表示されます。



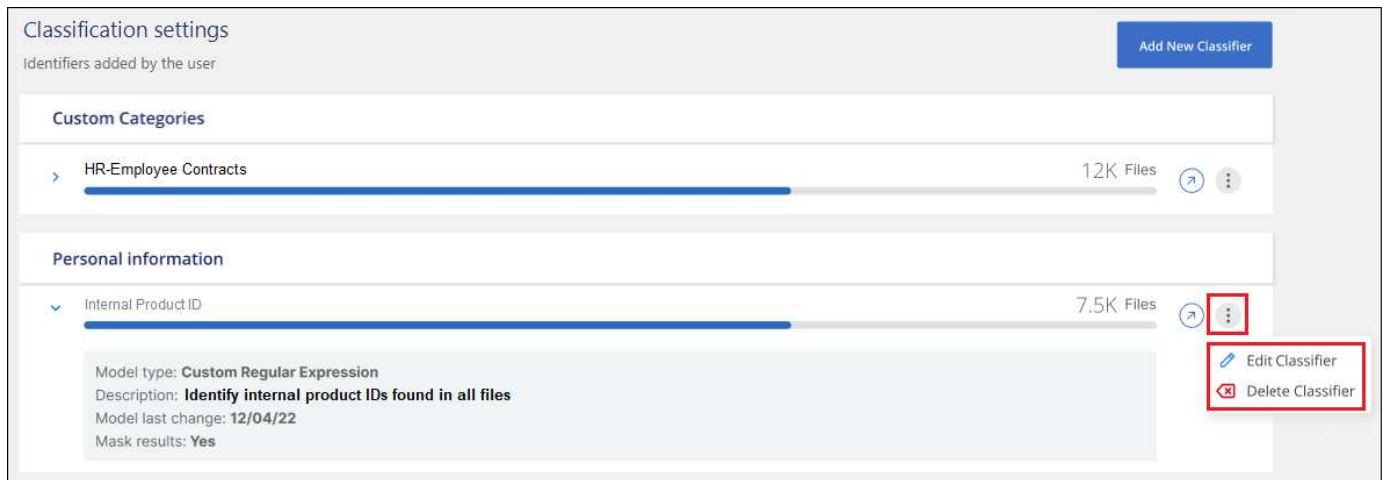
カスタム分類子を管理します

作成したカスタム分類子は、*Edit Classifier*ボタンを使用して変更できます。



現時点では、Data Fusion分類子を編集することはできません。

あとで、追加したカスタムパターンをBlueXPの分類で特定する必要がないと判断した場合は、*[Delete Classifier]*ボタンを使用して各項目を削除できます。



ページのスクリーンショット。"]

BlueXPの分類スキャンから特定のディレクトリを除外する

BlueXPの分類で、特定のデータソースディレクトリにあるスキャンデータを除外するには、これらのディレクトリ名を構成ファイルに追加します。この変更を適用すると、BlueXP分類エンジンによってディレクトリ内のスキャンデータが除外されます。

BlueXPの分類は、ボリュームの内容と同じであるため、ボリュームSnapshotデータのスキャンを除外するようにデフォルトで設定されています。

この機能は、BlueXP分類バージョン1.29以降（2024年3月以降）で使用できます。

サポートされているデータソース

BlueXPの分類スキャンから特定のディレクトリを除外することは、次のデータソースのNFS共有とCIFS共有でサポートされます。

- オンプレミスのONTAP
- Cloud Volumes ONTAP
- NetApp ONTAP 対応の Amazon FSX
- Azure NetApp Files の特長
- 一般的なファイル共有

スキャン対象から除外するディレクトリを定義する

分類のスキャン対象からディレクトリを除外するには、構成ファイルを編集してスクリプトを実行できるように、BlueXP分類システムにログインする必要があります。方法を参照してください ["BlueXP分類システムにログインする"](#) ソフトウェアを手動でLinuxマシンにインストールしたか、インスタンスをクラウドに導入したかによって異なります。



- BlueXP分類システムごとに最大50個のディレクトリパスを除外できます。
- ディレクトリパスを除外すると、スキャン時間に影響することがあります。

手順

1. BlueXP分類システムで、「/opt/netapp/config/custom_configuration」に移動してファイルを開きます。
data_provider.yaml。
2. 「data_providers」セクションの「exclude:」行の下に、除外するディレクトリパスを入力します。例:

```
exclude:
- "folder1"
- "folder2"
```

このファイルの他の内容は変更しないでください。

3. 変更をファイルに保存します。
4. 「/opt/netapp/Datasense/tools/customer_configuration/data_providers」に移動し、次のスクリプトを実行します。

```
update_data_providers_from_config_file.sh
```

このコマンドは、スキャンから除外するディレクトリを分類エンジンにコミットします。

結果

以降のデータスキャンでは、指定したディレクトリのスキャンが除外されます。

除外リストの項目を追加、編集、または削除するには、同じ手順を実行します。修正された除外リストは、スクリプトを実行して変更をコミットすると更新されます。

例

構成1:

名前の任意の場所に"folder1"を含むすべてのフォルダは、すべてのデータソースから除外されます。

```
data_providers:
  exclude:
    - "folder1"
```

除外するパスの想定される結果:

- /CVO1/folder1
- /CVO1/folder1name
- /CVO1/folder10
- /CVO1/*フォルダ1
- /CVO1/+ folder1name
- /CVO1/notfolder10

- /CVO22/フォルダ1
- /CVO22/folder1name
- /CVO22/フォルダ10

除外されないパスの例：

- /CVO1/*フォルダ
- /CVO1/foldername
- /CVO22/* folder20

構成2：

名前の先頭にのみ「* folder1」を含むすべてのフォルダは除外されます。

```
data_providers:
  exclude:
    - "\\*folder1"
```

除外するパスの想定される結果：

- /CVO /*フォルダ1
- /CVO /* folder1name
- /CVO /*フォルダ10

除外されないパスの例：

- /CVO/フォルダ1
- /cvo/folder1name
- /CVO / NOT * folder10

構成3：

データソース「CVO22」内の名前の任意の場所に「folder1」を含むすべてのフォルダは除外されます。

```
data_providers:
  exclude:
    - "CVO22/folder1"
```

除外するパスの想定される結果：

- /CVO22/フォルダ1
- /CVO22/folder1name
- /CVO22/フォルダ10

除外されないパスの例：

- /CVO1/folder1
- /CVO1/folder1name

- /CVO1/folder10

フォルダ名の特殊文字のエスケープ

次の特殊文字のいずれかを含むフォルダ名があり、そのフォルダ内のデータをスキャン対象から除外する場合は、フォルダ名の前にエスケープシーケンス\\を使用する必要があります。

```
., +, *, ?, ^, $, (, ), [, ], {, }, |
```

例：

ソース内のパス： /project/*not_to_scan

EXCLUDEファイルの構文： "*not_to_scan"

現在の除外リストを表示する

内容は可能である data_provider.yaml の実行後に実際にコミットされたものとは異なる構成ファイル update_data_providers_from_config_file.sh スクリプト：BlueXPの分類スキャンの対象から除外したディレクトリの現在のリストを表示するには、「/opt/netapp/Datasense/tools/customer_configuration/data_providers」で次のコマンドを実行します。

```
get_data_providers_configuration.sh
```

コンプライアンスアクションのステータスを表示します

100個のファイルの移動や削除など、多くのファイルで〔調査結果〕ペインから非同期アクションを実行する場合は、このプロセスに時間がかかることがあります。これらのアクションのステータスは、_Action Status_Paneで監視できるので、すべてのファイルにいつ適用されたかを知ることができます。

これにより、正常に完了した操作、現在実行中の操作、および失敗した操作を確認できるため、問題を診断して修正できます。単一ファイルの移動など、短時間で完了する短時間の処理は、[操作][ステータス]ペインには表示されません。


ステータスは次のいずれかになります。

- 成功- BlueXPの分類アクションが完了し、すべての項目が成功しました。
- 部分的に成功- BlueXPの分類処理が完了し、一部の項目が失敗して一部が成功しました。
- In Progress -処理はまだ実行中です。
- Queued -処理が開始されていません。
- Cancelled -処理はキャンセルされました。
- failed -処理に失敗しました。

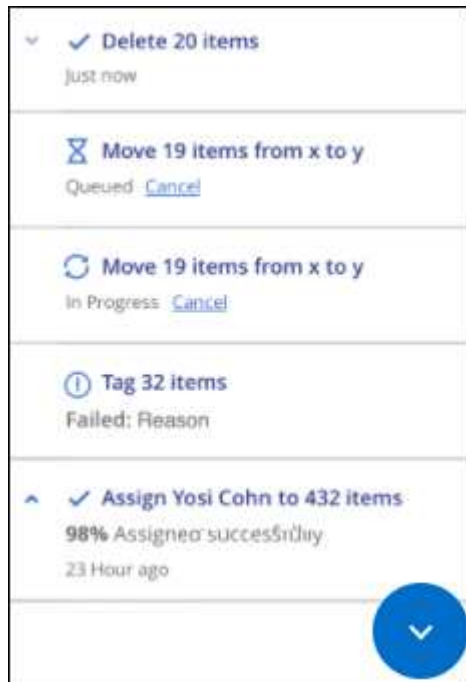
ステータスが「Queued」または「In Progress」のアクションはすべてキャンセルできます。

手順

1.

BlueXP分類UIの右下には、[操作][ステータス]*ボタンが表示されます 。

2. このボタンをクリックすると、最新の 20 件のアクションが表示されます。



アクションの名前をクリックすると、その操作に対応する詳細を表示できます。

追加のグループIDを組織に対してオープンとして定義する

グループID (GID) がNFSファイル共有内のファイルまたはフォルダに添付される場合、グループIDはファイルまたはフォルダに対する権限（組織に対して開かれているかどうかなど）を定義します。一部のグループID (GID) に「組織を開く」権限レベルが設定されていない場合は、その権限をGIDに追加して、そのGIDが添付されているファイルやフォルダが「組織に対して開かれている」とみなされるようにすることができます。

この変更を行ってBlueXPの分類でファイルやフォルダが再スキャンされると、これらのグループIDが関連付けられているファイルやフォルダには、[調査の詳細]ページにこの権限が表示され、ファイルの権限を表示しているレポートにも表示されます。

この機能をアクティブ化するには、構成ファイルを編集してスクリプトを実行できるように、BlueXP分類システムにログインする必要があります。方法を参照してください ["BlueXP分類システムにログインする"](#) ソフトウェアを手動でLinuxマシンにインストールしたか、インスタンスをクラウドに導入したかによって異なります。

「組織を開く」権限をグループIDに追加する

このタスクを開始する前に、グループID番号 (GID) が必要です。

手順

1. BlueXP分類システムで、「/opt/netapp/config/custom_configuration」に移動してファイルを開きます。
data_provider.yaml。
2. 「organization_group_ids:[]」行にグループIDを追加します。例：

```
organization_group_ids: [1014, 1015, 21, 2021, 1013, 2020, 1018, 1019]
```

このファイルの他の内容は変更しないでください。

3. 変更をファイルに保存します。
4. 「/opt/netapp/Datasense/tools/customer_configuration/data_providers」に移動し、次のスクリプトを実行します。

```
update_data_providers_from_config_file.sh
```

このコマンドは、変更されたグループID権限を分類エンジンにコミットします。

結果

その後のデータスキャンでは、これらのグループIDが「組織に対して開かれている」と添付されているファイルまたはフォルダが特定されます。

次の手順を使用して、グループIDのリストを編集したり、過去に追加したグループIDを削除したりできます。変更したグループIDのリストは、スクリプトを実行して変更をコミットすると更新されます。

現在のグループIDのリストを表示する

内容は可能である data_provider.yaml の実行後に実際にコミットされたものとは異なる構成ファイル update_data_providers_from_config_file.sh スクリプト：BlueXPの分類に追加したグループIDの現在のリストを表示するには、「/opt/netapp/Datasense/tools/customer_configuration/data_providers」から次のコマンドを実行します。

```
get_data_providers_configuration.sh
```

BlueXPの分類アクションの履歴を監査します

BlueXPの分類では、BlueXPの分類でスキャンするすべての作業環境とデータソースのファイルに対して実行された管理アクティビティがログに記録されます。BlueXPの分類では、BlueXP分類インスタンスを導入する際のアクティビティも記録されます。

BlueXP分類監査ログファイルの内容を表示したり、ファイルをダウンロードして、どのファイルが変更されたか、いつ変更されたかを確認したりできます。たとえば、発行された要求、要求の時刻、ファイルが削除された場合のソースの場所、ファイルが移動された場合のソースとデスティネーションの場所などの詳細を確認できます。

ログファイルの内容

監査ログの各行には、次の形式で情報が表示されます。

```
<full date> | <status> | ds_audit_logger | <module> | 0 | 0 | File <full file path> deleted from device <device path> - <result>
```

- 日付と時刻-イベントの完全なタイムスタンプ
- Status -情報、警告
- アクションタイプ（削除、コピー、移動、ポリシーの作成、ポリシーの更新、 ファイルの再スキャン、JSONレポートのダウンロードなど）
- ファイル名（ファイルに関連するアクションの場合）
- アクションの詳細-何が行われたか：アクションによって異なります
 - ポリシー名
 - 移動元と移動先のデータ用
 - コピー元およびコピー先の場合
 - tag-tag nameを指定します
 - をクリックします
 - Eメールアラートの場合- Eメールアドレス/アカウント

たとえば、ログファイルの次の行は、コピー処理が成功し、コピー処理が失敗した場合を示しています。

```
2022-06-06 15:23:08,910 | INFO | ds_audit_logger | es_scanned_file | 237 | 49 | Copy file /CIFS_share/data/dopl/random_positives.tsv from device 10.31.133.183 (type: SMB_SHARE) to device 10.31.130.133:/export_reports (NFS_SHARE) - SUCCESS
2022-06-06 15:23:08,968 | WARNING | ds_audit_logger | es_scanned_file | 239 | 153 | Copy file /CIFS_share/data/compliance-netapp.tar.gz from device 10.31.133.183 (type: SMB_SHARE) to device 10.31.130.133:/export_reports (NFS_SHARE) - FAILURE
```

ログファイルの場所

管理監査ログファイルは、BlueXP分類マシンの次の場所にあります。 /opt/netapp/audit_logs/

インストール監査ログファイルがに書き込まれます /opt/netapp/install_logs/

各ログファイルのサイズは最大で10MBです。この制限に達すると、新しいログファイルが開始されます。ログファイルの名前は「DataSense_audit.log」、「DataSense_audit.log.1」、「DataSense_audit.log.2」などです。システムに保持されるログファイルの最大数は100です。古いログファイルは、最大数に達すると自動的に削除されます。

ログファイルへのアクセス

ログファイルにアクセスするには、BlueXP分類システムにログインする必要があります。方法を参照してください ["BlueXP分類システムにログインする"](#) ソフトウェアを手動でLinuxマシンにインストールしたか、インスタンスをクラウドに導入したかによって異なります。

BlueXPの分類スキャン速度が低下します

データスキャンは、ストレージシステムとデータにほとんど影響を与えません。ただし、影響がごくわずかであっても問題が発生する場合は、「低速」スキャンを実行するようにBlueXPの分類を設定できます。

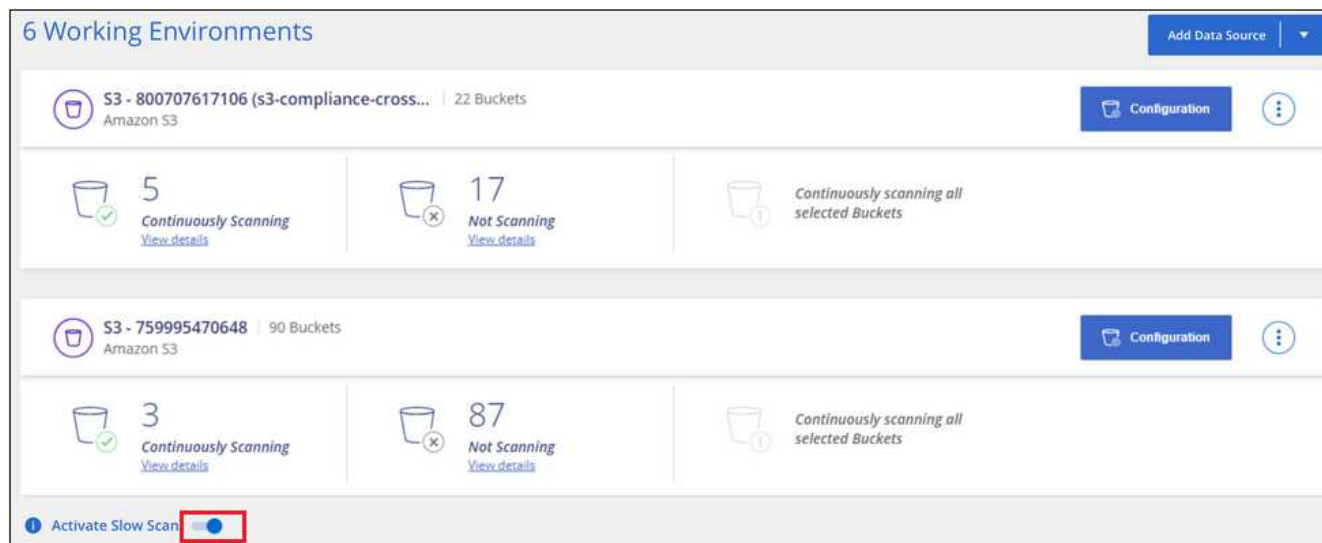
有効にすると、すべてのデータソースで低速スキャンが使用されます。1つの作業環境またはデータソースで低速スキャンを設定することはできません。



データベースのスキャン中は、スキャン速度を下げることはできません。

手順

1. _Configuration_page の下部から、スライダを右に動かして低速スキャンを有効にします。



設定ページの上部には、低速スキャンが有効になっていることが示されます。



2. このメッセージの * 無効 * をクリックすると、低速スキャンを無効にできます。


BlueXP分類からデータソースを削除しています

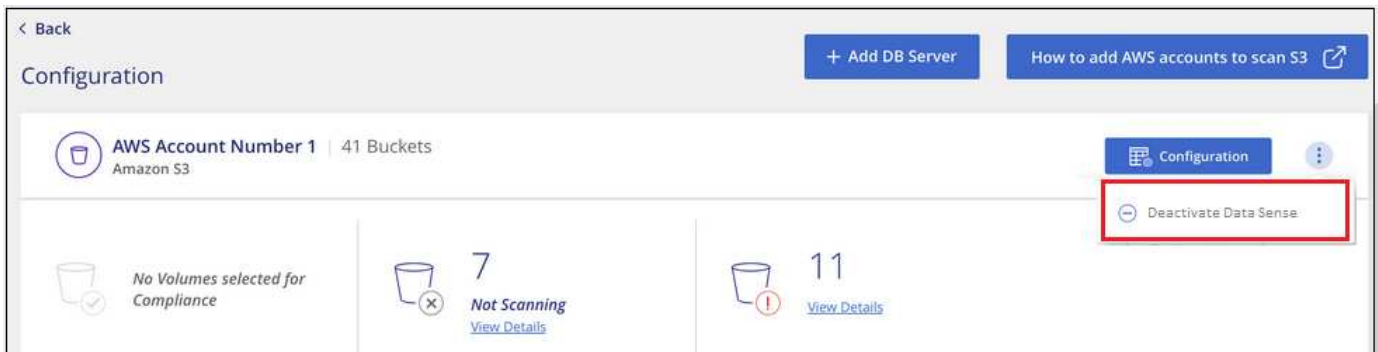
必要に応じて、BlueXPの分類によって1つ以上の作業環境、データベース、ファイル共有グループ、OneDriveアカウント、Google Driveアカウント、またはSharePointアカウント。

データソースが削除されると、データスキャンの課金が停止します。

作業環境のコンプライアンススキャンを非アクティブにします

スキャンを非アクティブ化すると、BlueXPの分類によって作業環境のデータがスキャンされなくなり、インデックス化されたコンプライアンス分析情報がBlueXPの分類インスタンスから削除されます（作業環境自体のデータは削除されません）。

1. [Configuration] ページで、をクリックします  ボタン"] ボタンをクリックして作業環境を選択し、[* データセンスを非活動化 *（Deactivate Data Sense *）] をクリックします。




を選択できるアクションアイコンのスクリーンショット。このオプションは、キャンバスページから作業環境を選択した後で使用できます。"]

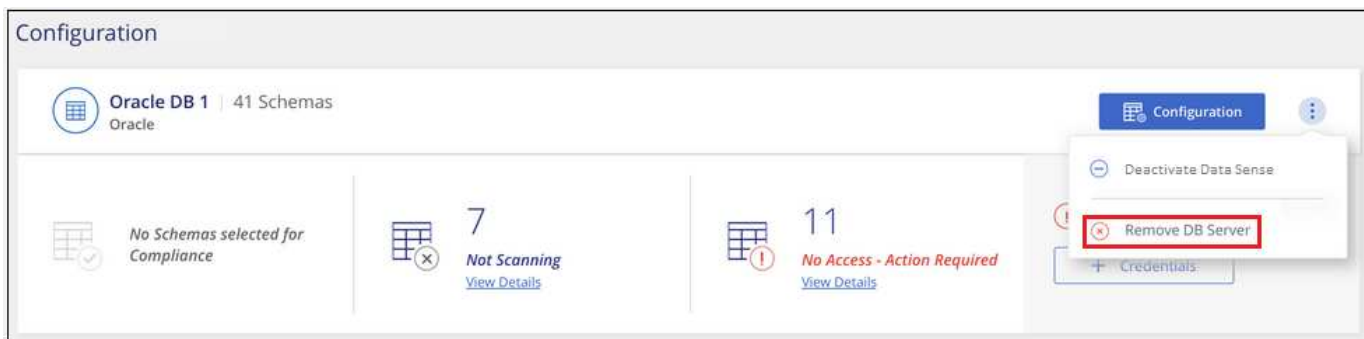


作業環境を選択するときに、サービスパネルから作業環境のコンプライアンススキャンを無効にすることもできます。

BlueXP分類からデータベースを削除しています

特定のデータベースのスキャンが不要になった場合は、BlueXPの分類インターフェイスからそのデータベースを削除して、すべてのスキャンを停止できます。

1. [Configuration] ページで、をクリックします  ボタン"] ボタンをクリックし、* DB サーバの削除 * をクリックします。



OneDrive、SharePoint、Google DriveのアカウントをBlueXP分類から削除する

特定のOneDriveアカウント、特定のSharePointアカウント、またはGoogle Driveアカウントからユーザファイルをスキャンする必要がなくなった場合は、BlueXP分類インターフェイスからアカウントを削除して、すべてのスキャンを停止できます。

手順

1. [Configuration] ページで、をクリックします [: ボタン"] OneDrive、SharePoint、Google Driveアカウントの行にあるボタンをクリックし、* OneDriveアカウントの削除*、* SharePointアカウントの削除*、または* Googleドライブアカウントの削除*をクリックします。



ページから [OneDrive を削除] ボタンのスクリーンショット。"]

2. 確認ダイアログで * アカウントの削除 * をクリックします。

BlueXP分類からファイル共有のグループを削除しています

ファイル共有グループのユーザファイルをスキャンする必要がなくなった場合は、BlueXPの分類インターフェイスからファイル共有グループを削除して、すべてのスキャンを停止できます。

手順

1. [Configuration] ページで、をクリックします [: ボタン"] [ファイル共有グループ] の行にあるボタンをクリックし、[* ファイル共有グループの削除*] をクリックします。



2. 確認ダイアログで * 共有のグループを削除 * をクリックします。


BlueXP分類をアンインストールしています

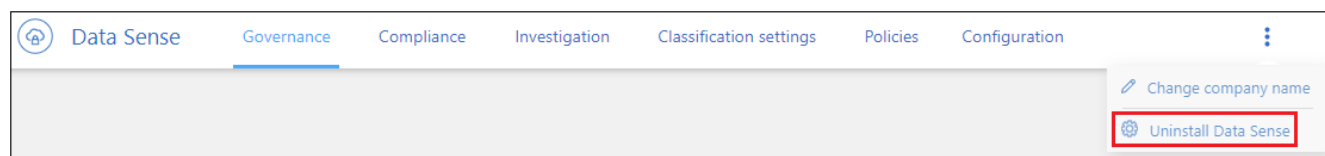
BlueXP分類ソフトウェアをアンインストールして、問題をトラブルシューティングしたり、ホストからソフトウェアを完全に削除したりできます。インスタンスを削除すると、インデックス付きデータが格納されている関連ディスクも削除されます。BlueXP分類によってスキャンされたすべての情報が完全に削除されます。

使用する必要がある手順は、BlueXPの分類をクラウドとオンプレミスのどちらのホストのどちらに導入したかによって異なります。

クラウド環境からBlueXP分類をアンインストールします

BlueXP分類を使用する必要がなくなった場合は、クラウドプロバイダ環境からBlueXP分類インスタンスをアンインストールして削除できます。

1. BlueXPの分類ページの上部にあるをクリックします  ボタン"] 次に、[データセンスのアンインストール]をクリックします。




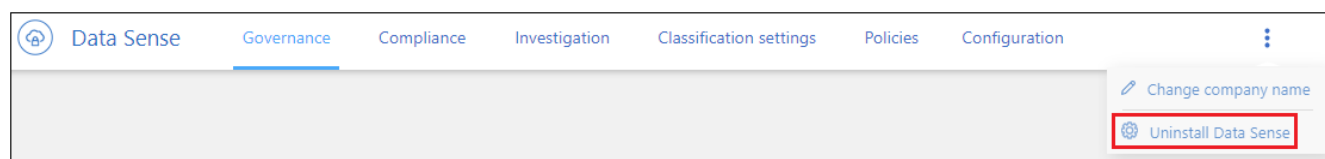
2. [Uninstall Data Sense]ダイアログで、「* uninstall」と入力してBlueXPコネクタからBlueXP分類インスタンスを切断することを確認し、[アンインストール]*をクリックします。
3. クラウドプロバイダのコンソールに移動し、BlueXP分類インスタンスを削除します。インスタンスの名前は *CloudCompliance_with* で、生成されたハッシュ（UUID）を連結しています。例： *_CloudCompliance-16bb6564-38ad-40802-9a92-36f5fd2f71c7*

これにより、BlueXPの分類によって収集されたインスタンスと関連するすべてのデータが削除されます。

オンプレミス環境からBlueXP分類をアンインストールします

BlueXP分類を使用する必要がなくなった場合や、問題の再インストールが必要な場合は、ホストからBlueXPをアンインストールできます。

1. BlueXPの分類ページの上部にあるをクリックします  ボタン"] 次に、[データセンスのアンインストール]をクリックします。



2. [Uninstall Data Sense]ダイアログで、「* uninstall」と入力してBlueXPコネクタからBlueXP分類インスタンス

タンスを切断することを確認し、[アンインストール]*をクリックします。

3. ホストからソフトウェアをアンインストールするには、 `cleanup.sh` ホストマシン上のスクリプト。例
：

```
cleanup.sh
```

方法を参照してください "[BlueXP分類ホストマシンにログインします。](#)"。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。